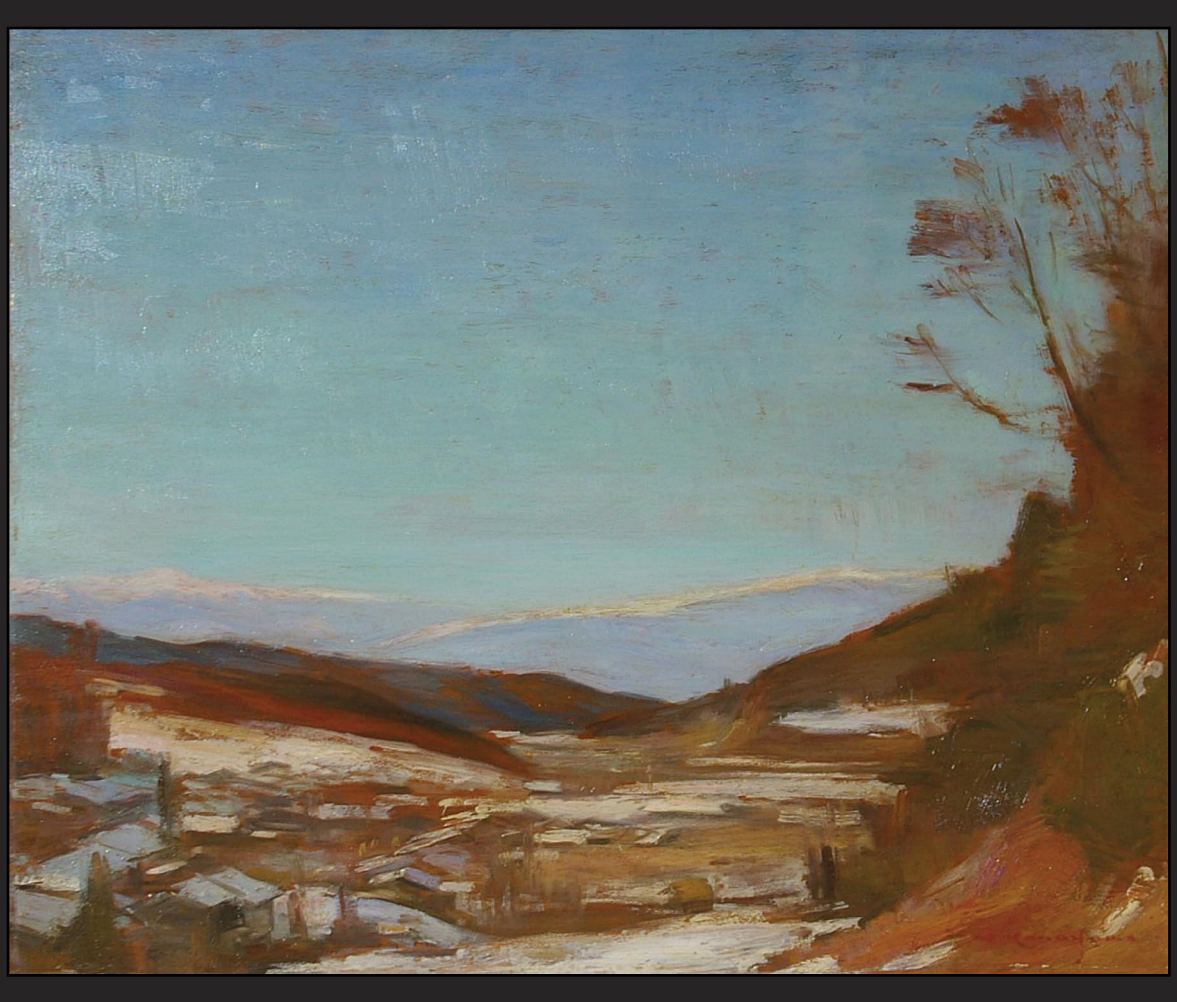
油彩 —— 風景、静物

名人・金山平三

金子コレクションより



残雪（山形） 制作年不詳 油彩・板

HEIZO
1883 — 1964
KANAYAMA

2017
10.28（土）▶12.24（日）

河口湖美術館
KAWAGUCHIKO MUSEUM OF ART
kgmuse.com

最上川雪景　1945-56 年　油彩・カンヴァス

雪の十国峠　1954 年　油彩・カンヴァス

小菊　1935-45 年　油彩・板

港　1945-56 年頃　油彩・カンヴァス

あま鯛　1945-56 年頃　油彩・カンヴァス

類別するとすれば、たしかに再現的芸術とか写実的絵画の系譜に数えられるべき作家のひとりといってよいでしょう。 けれど金山平三の写実は、作品の近くに寄ってみると、静物にしても風景にしても細部が案外なほど省略されていて、小気味よく、荒々しくすら見える絵筆のストローク、タッチがそのまま絵柄になっている。 それはフォトリアリズム絵画のような克明で没個性的な細密描写とはあきらかに違う、そうでありながらそこには独特な臨場感がある。 鑑賞者は絵画作品と対面するというよりも、画家自身の眼になって視覚を追体験するような臨床感覚にとらわれる。

金山が画家として生きた時代 —— 戦争をはさむ 20 世紀初頭から 1960 年代にかけて —— は、美術表現においてもさまざまな主義主張がそれぞれに盛んにのろしをあげ、再現的描写よりも思想性や情意の発露が重視されるようになっていったため、金山のような、現場での写生に基づいたオーソドックスな具象絵画に皆が刺激を感じなくなっていったと推察できます。 そのような時代背景のなか、画壇における政治的混乱も手伝って、思うところあってのことでしょう、五十歳を過ぎたころに世俗的な名声を捨てて隠棲し、しだいに知る人ぞ知る画家となっていった金山ですが、しかし没して半世紀になる今でもその作品はこうして輝きを失いません。 眼ぢから、筆ぢから、とでも申しましょうか。カメラで撮影した画像と、眼で見ることは同じではないのだ、やっぱり画家ってすごいな…。 金山平三はあらためてそう思わせる作家です。

本展は金子コレクションのご協力をいただき、約 80 点の作品によって構成いたします。

春霞　1940 年頃　油彩・カンヴァス

中禅寺湖　制作年不詳　油彩・カンヴァス

金山平三（かなやまへいぞう　1883-1964）

兵庫県神戸区（現在の神戸市）に金山春吉、ひさの第四子として生まれる。神戸尋常小学校、立教中学校（東京）を卒業後、東京美術学校西洋画科に入学、黒田清輝（1866-1924）の指導のもとで学んだ。同校を首席で卒業して研究科に進み助手となったが 1911（明治 44）年退学し翌年渡仏。パリを拠点にしてヨーロッパ各地に写生に赴き 4 年後に帰国、神戸に帰郷した。1916（大正 5）年文部省美術展覧会（いわゆる文展）に初出品した作品が特選、文部省買い上げとなり、以後もっぱら文展、帝国美術展（いわゆる帝展）に風景画や静物画を出品して評価を高め、三十代半ばにして帝展審査委員に選ばれ以後長くこれをつとめた。またこの間 1919（大正 8）年牧田らくと婚姻して小石川に居住し震災後は下落合にアトリエを構えて暮らした。1935（昭和 10）年の帝国美術院改組とその混乱に際して出品を拒み、それを機に中央画壇から離れ団体にも属さず孤高の画業を歩むこととなった。1944（昭和 19）年には現在の人間国宝の前身にあたる帝室技芸員に選ばれた。1947（昭和 22）年山形県大石田に移住。中央の団体から審査員を依頼されることなどもあったが応じず、晩年まで同地を生活拠点に旺盛な制作を続けた。そうした姿勢であったためか歳月が過ぎるうちに画家としては世人から忘却されたかにみえたが、画業五十年になる 1956（昭和 31）年に東京日本橋で 200 点以上の作品による大規模な個展が開かれ健在を示した。1957（昭和 32）年日本芸術院会員。没後多くの作品が兵庫県立近代美術館に収蔵され金山平三記念室が設けられている。

HEIZO
1883 — 1964
KANAYAMA

油彩 ― 風景、静物	名人・金山平三　1883-1964
会場	河口湖美術館
会期	2017 年 10 月 28 日（土）～ 12 月 24 日（日）
休館日	10/31(火) 12/5(火) 12/12(火) 12/19(火)
開館時間	〔10月から11月　9:30－17:00（入館は16:30まで）〕 〔12月　9:30－16:30（入館は16:00まで）〕
入館料	一般・大学生800(720) 高校生・中学生500(450) 小学生以下無料　カッコ内は8名以上の団体料金 毎月14日は入館無料の日
主催	河口湖美術館
企画・協力	公益財団法人日動美術財団

◆富士急行線河口湖駅から路線バス《甲府駅行》《大石プチペンション村行》のバス停「河口湖美術館前」下車徒歩約 7 分
◆河口湖周遊レトロバスの「河口湖美術館」下車すぐ　◆中央自動車道河口湖 I.C. から約 15 分　Ⓟ 無料駐車場 (普通車 50 台　大型バス 6 台)

401-0304　山梨県南都留郡富士河口湖町河口 3170　tel 0555-73-8666　fax 0555-76-7879